

第3章 中学部の取組

I 中学部について

<生徒の様子>

中学部は、生徒が50名在籍しており、具体物の操作で自分のすることがわかる初期発達の生徒から友達同士での会話や学習を楽しむ生徒まで実態は様々である。併せて、医療的ケアや情緒面などから個別の支援や配慮が必要な生徒もいる。中学部の作業学習は、年間で3つの単元を組み、クラフト班、石けん班、土づくり班、和紙班の4班で活動を行っている。

<2年目の研究>

2年目は、各教科等を合わせた指導の作業学習で研究に取り組んだ。単元記録表では、作業班ごとに学習内容を書き出し、作業学習における関連する各教科等の内容を明らかにした。そのことにより、教師が各教科等の内容を意識するようになり、各教科等の学習との多様なつながりに気付くことで、生徒への発問の仕方が精選されたりした。また、単元終了後に単元記録表や授業づくりの確認表を活用して、授業者間で教材・教具や場の設定、生徒への支援の仕方等を振り返ることで、次単元での授業づくりにつなげることができた。

アセスメントシートでは、事例生徒を各班2名ずつ挙げ、評価の3観点から個々の生徒の実態把握、目標、手立て、評価までを行った。アセスメントシートをもとに、目標設定や手立てについて作業班内で話し合い、よりよい支援につなげることができた。また、アセスメントシートに教師による支援度を設けて、教師が生徒に対しどれくらい支援をしているのかに着目し、できる状況づくりの見直しを図った。

2年目の研究の課題として①中学部と高等部の作業学習における系統性②アセスメントシートと単元記録表とのつながり③単元記録表やアセスメントシートを活用しての学部内や高等部との話し合いの充実、が挙げられた。

<3年目の研究>

3年目も全校テーマを受けて、単元記録表とアセスメントシートの活用でPDCAサイクルの実現、質の高い学びを目指した。単元記録表では、関連する各教科等の内容の精選し、その評価も行った。単元の目標設定や授業づくりは、「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって行い、改善を図るようにした。各作業班での取組を学部内で共有する研修会を設け、授業づくりの質の向上を目指した。

アセスメントシートでは、2年目の様式の改善を図り、生徒の目標、関連する各教科等の内容を項目に加えた。評価については、関連する各教科等の視点からも行うようにした。また、単元ごとに作成していたアセスメントシートを一枚にして、1年間の生徒の変容がわかるように実践を記録し、PDCAサイクルを回せるようにした。また、中学部と高等部の作業学習に系統性をもたせるために、合同研修会を行った。アセスメントシートをもとに事例生徒の実態把握や目標設定、手立てについて、中学部・高等部の教師で話し合うことで、各学部の作業学習の考え方について共通理解を図った。

3年間の研究のまとめとして、単元記録表とアセスメントシートを活用し、より良い授業づくりの実践していくことで生徒の質の高い学びの実現を目指した。

Ⅱ 研究の目的

- 質の高い学びを実現するために、単元記録表を活用して、関連する各教科等の内容の精選を図りながら、授業改善を行う。
- 一人一人の生徒の質の高い学びを目指して、アセスメントシートで生徒の指導経過（評価）を記録し、支援の改善を図る。

Ⅲ 研究の方法

- 単元記録表の活用
 - ・関連する各教科等の内容について、各作業班で精選しながら、4つの作業班がどのような各教科等の内容と関連しているのかについて整理する。
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりにおいて、生徒が自己評価や振り返りができる場面を設定し、指導の経過と生徒の変容を記録から授業評価を行う。
- アセスメントシートの活用
 - ・事例生徒を各作業班で3名挙げて、アセスメントシートに実践を記録し、手立てや指導改善につなげる。
 - ・アセスメントシートの様式を変えて、より各教科等の内容を意識できるようにする。
 - ・高等部と合同の研修会を実施し、アセスメントシートをもとにしてグループで話し合い、多くの視点で生徒の実態把握を行う。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり
 - ・単元記録表、アセスメントシートの活用を図りながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりを行い、授業研究を行う。

IV 実践例

1 単元記録表

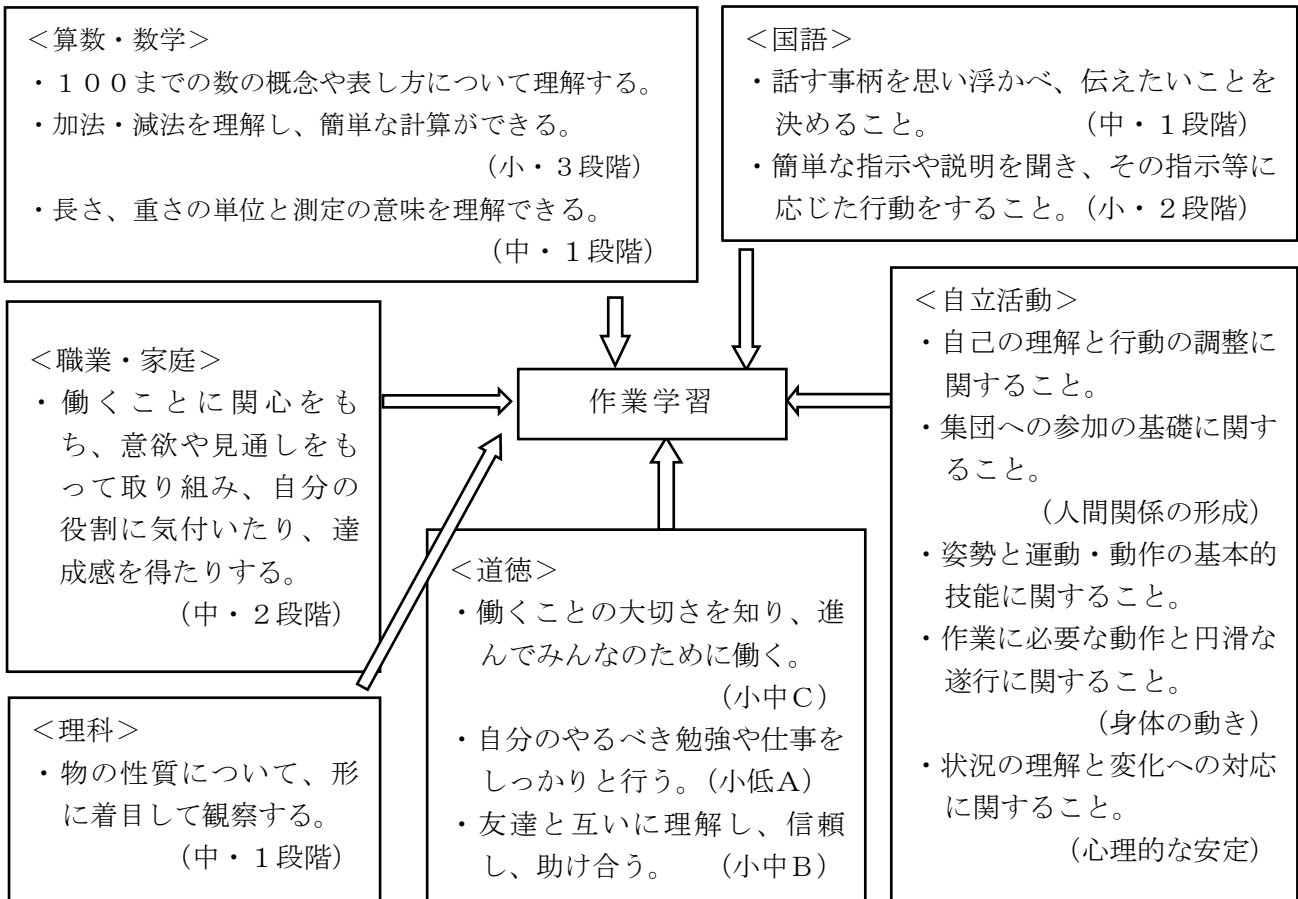
中学部 作業学習（石けん班） 単元記録表

学校教育目標	子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校～夢を・みんなと・笑顔で～
めざす児童生徒像	○健康で元気な子 ○夢をかなえようとする子 ○思いやりのある心豊かな子 ○すすんで学び、考え、行動する子
中学部 学部目標	○体力の向上と健康の保持増進を図り、心身ともに充実した生活を送る力と態度を育てる。 ○身辺自立を図り、目標に向かい、社会とつながりをもち主体的に活動する力を育てる。 ○集団の中で活動する楽しさを味わい、豊かな人間関係を築く意欲や態度を育てる。 ○日常生活につながる知識・技能・態度を習得し、自ら考え行動する力を育てる。



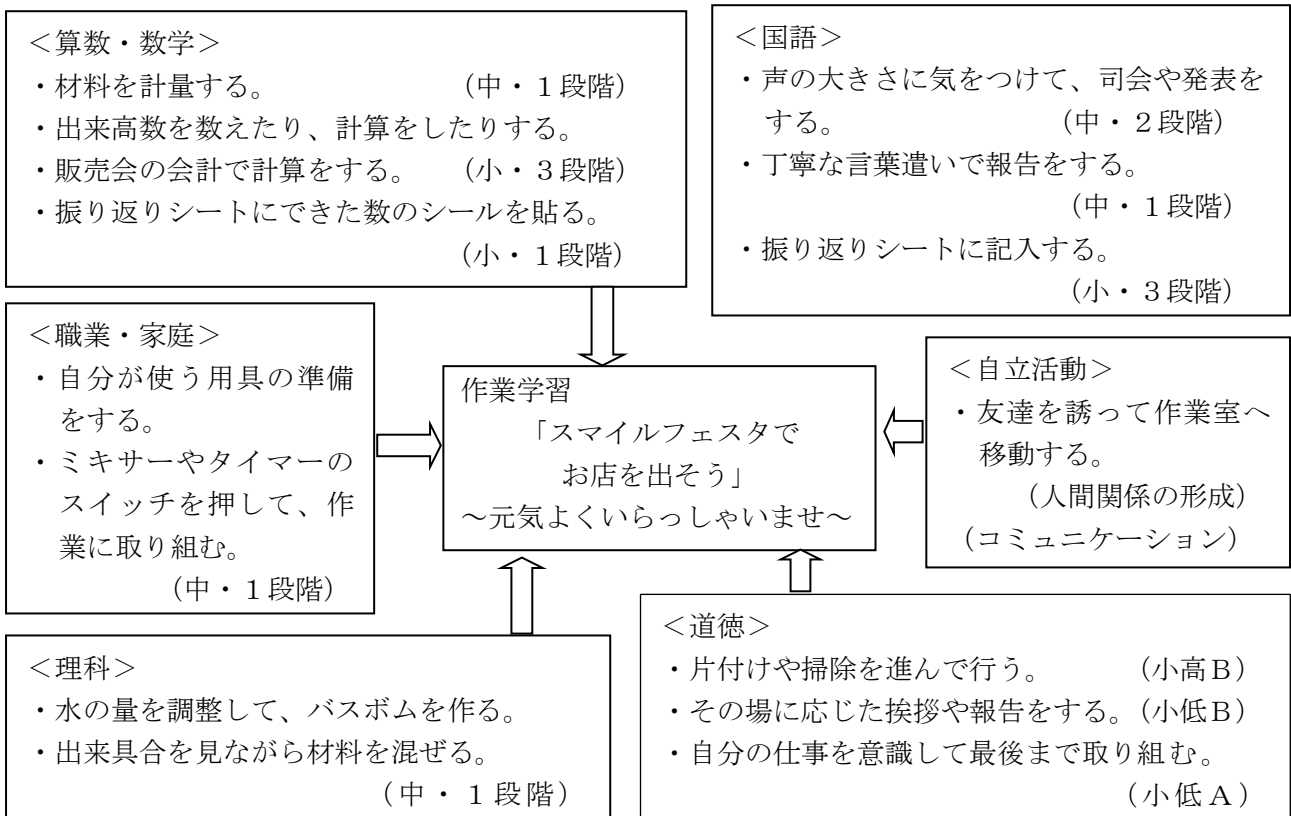
作業学習 年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業内容を理解して、時間いっぱい製品作りに取り組むことができる。（知識・技能） ・働く上での姿勢（挨拶、報告、相談等）を身につけ、その場に応じて活動に取り組むことができる。（思考・判断・表現） ・仲間や教師と協力し、物を作る楽しみや製品を完成させたり、販売したりする成就感や達成感を味わい、社会とつながりをもつことができる。（主体的に学習に取り組む態度）
-----------	---

<各教科等の内容（学習指導要領の内容から抜粋）との関わり>



単元名	スマイルフェスタでお店を出そう ～元気よくいらっしやいませ～
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・担当する仕事を覚え、黙々と作業に取り組むことができる。(知・技) ・その場に応じた声の大きさに挨拶や報告をすることができる。 (思・判・表) ・友達と協力して、作業やお店づくり、販売活動に取り組むことができる。(主)

<単元と各教科等の内容との関わり> ※生徒の活動より抜粋、学部・段階は学習指導要領の内容



<「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり>

主体的な学び(興味・関心、見通し)	対話的な学び(やりとり、気持ちを伝える)
<ul style="list-style-type: none"> ・MVP表とカウントダウン日めくりカレンダーを用意する。 ・作業工程表を写真カードで用意する。 ・材料の違いが分かるように、入れ物を色分けする。 ・十分な活動量を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が持っているかごに雑巾を入れたり、出したりする役割を決める。 ・材料がなくなったら、教師の肩をたたいて知らせるようにする。 ・ラベル貼りやラッピングの工程を分けて、仕事を分担し流れ作業にする。
深い学び(知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り)	
<ul style="list-style-type: none"> ・今日の頑張りを発表できるように、MVP表を活用する。 ・生徒が自己評価をして発表できるように、一人一人に合った振り返りシートを用意する。 	

<学習の内容>

※1 学習指導要領の目標・内容の一覧より該当する項目を記載

月	主な活動内容	関連する各教科等※1
9 10	<p><身支度・準備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エプロンを着ける。 ・手を洗う。 ・用具を準備する。 <p><始めの会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長の司会で始めの会を行う。 ・単元の目標を言う。 ・今日の仕事内容を知る。 <p><バスボム G></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業工程表を見て仕事を進める。 ① 材料(重曹、クエン酸、片栗粉、入浴剤)を量る。 ②材料を混ぜる。塊をつぶす。 ③霧吹きで水をかけて混ぜることを繰り返す。 ④カップに入れて圧縮する。 型ぬきを使う場合は、材料を型に入れて抜く。 ⑤乾燥したらトレイの上に出す。 <p><きみとくん石けん G>(前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 固形石けんを量る。 ②水を計る。 ③材料をミキサーに入れる。 ④タイマーをセットし、ミキサーのスイッチを押す。 ⑤鳴ったらミキサーを止め、容器に移す。 <p><ぶにぶに石けん G>(後半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 材料(粉石けん)を量る。 ②粉とお湯をボウルに入れる。 ③ヘラを使って粉とお湯を混ぜる。 ④混ぜ終わったら、教師に報告し、トレイに移す。 <p><洗濯 G></p> <ul style="list-style-type: none"> ①洗濯機に雑巾と洗剤を入れてスイッチを押す。 ②前日に干してあった雑巾を取り込む。 ③台車を押して雑巾の配達、回収をする。 ④挨拶をして教室をまわる。 ⑤回収した雑巾の枚数を表に記入する。 ⑥選択した雑巾を干す。 <p><販売会に向けて></p>	<p>職・家 1-A 職業(イ)</p> <p>道徳小低 B(8)</p> <p>中・数学 1-C 測定 理・1-C 物質・エネルギー</p> <p>職・家 1-A (エ) 小・算数 1-A 数量イ 職・家 1-A(ア)</p> <p>中・数学 1-C 測定 理・1-C 物質・エネルギー</p> <p>道徳小中 B(8)</p>

<p>① 製品の容器詰め、ラベル貼り、ラッピングをする。 ② お店での役割を決め、接客練習をする。</p> <p><終わりの会></p> <p>① 振り返りシートに記入する。 ② 副班長の司会で終わりの会を進める。 ③ 今日の仕事内容と成果を全体の前で発表する。 ④ 今日の出来高を発表し、計算する。 ⑤ MVPの発表を聞く。</p>	<p>小・国 3-B 書くことウ 職・家 1-A(ウ)</p> <p>小・算数 3-A 数と計算イ</p>
---	---

<評価>

○単元の振り返り

<ul style="list-style-type: none"> ・製品の色や形を変え、試行錯誤を繰り返す中でどうしたら形が崩れないかなどを生徒が考えることができた。 主 深 ・多くの生徒が製品作りに楽しさを見出し、時間いっぱい製品を作ることができた。 主 ・声のものさし表を準備したことで、場面に応じた声の大きさを生徒自身が考え、話すことができた。また、生徒が声の大きい友達に声のものさし表を見せて、適切な声の大きさを伝える場面も見られた。 対 ・用具の準備・片付け、一つの製品を二人で協力して作り上げる場面を設定したが、他に協力をする場面や友達を意識する場面がほとんど見られなかった。 対

○単元における関連する各教科等の内容の経過・変容

	関連する各教科等の内容	経過・変容
国語	・声の大きさに気をつけて、司会や発表をする。	・個々の生徒に合わせた振り返りシートの記入により話すことが整理され、落ち着いて発表することができた。声のものさし表を用意することで、その場に適した声の大きさを意識して話すこともできた。繰り返し発表を行うことで流れを理解し、スムーズに発表することができた。
数学・算数	・材料を計量する。	・4種類の材料と必要な量が分かりやすいように材料ごとに色分けした容器と必要なグラム数を書いたカードを用意した。また風袋を引いた測り方や細かな量の調整の仕方等の手本を教師が示すようにした。生徒は一人で電子秤の目盛りを見ながら、量を調整して正確に量ることができた。
理科	・出来具合を見ながら材料を混ぜる。	・バスボム、ぷにぷに石けん作りでは、出来上がりの色や固さについて言葉がけをした。繰り返し取り組むことにより、材料が変化する様子を見て、タイマーがなくても材料をしっかりと混ぜ、製品を仕上げるができる生徒が増えてきた。「もう少し水を入れます」等の言葉も生徒からあり、材料が変化する様子を観察して、考えながら作業を進めることができた。
道徳	・その場に応じた挨拶や報告をする。	・「できました」「よろしくおねがいます」等の言葉カードを用意したことで、丁寧な言葉遣いで報告をすることができた。また、教師が挨拶の手本となることで生徒同士も挨拶を意識し、はっきりと挨拶ができるようになってきた。

○次単元に向けて

- ・石けん班の3グループそれぞれの作業工程を一覧にして掲示することで、自分が今どの仕事を行っているのかが分かったり、他のグループの活動を知り、友達と協力して製品を作ったりしている意識がもてるようにする。
- ・連絡、報告、相談の仕方（用語）を掲示して、生徒も教師も大切なことを意識できるようにする。
- ・意欲をもって取り組めるように作業始めにグループごとに目標数を決める。
- ・生徒が主体的に発表できるように、振り返りシートを用いた発表の仕方を改善する。

2 学習指導案

中学部 作業学習（石けん班） 学習指導案

1 単元名 「スマイルフェスタでお店を出そう」～元気よくいらっしやいませ～

2 単元について

石けん班は、1年生3名、2年生4名、3年生3名の計10名で構成されており、バスボム、ぷにぷに・きみとくん石けん、洗濯の3グループに分かれて活動している。教師の言葉かけで作業内容や工程を理解して取り組むことができる生徒、手順表等の視覚的な支援を行うことで見通しをもって作業に取り組むことができる生徒、教師が側で言葉をかけたり一緒に行ったりすることで、安心して作業に取り組むことができる生徒など実態は様々である。

中学部の作業学習では以下の3つの目標に取り組んでいる。

- ①自分の作業内容を理解して、時間にいっぱい製品作りに取り組むことができる。
- ②働く上での姿勢を身につけ、その場に応じて活動に取り組むことができる。
- ③仲間や教師と協力し、物を作る楽しみや製品を完成させたり、販売したりする成就感や達成感を味わい、社会とつながりをもつことができる。

前単元の生徒の様子として、各グループ共に仕事を覚えると自ら仕事を進め、意欲的に取り組むことができた。一方で、時間いっぱい取り組めず、手が止まったり教師に話しかけたりする生徒もいた。販売会では、お客さんにたくさんの製品を買ってほしいという気持ちから大きな声で呼び込みや接客をしたり、残りの製品数を気にしたりする様子が見られ、販売会での役割を最後まで行うこともできていた。しかし、普段の作業学習中は友達と協力する場面があまり見られなかった。教師の授業づくりで意図したこととして、「振り返りシート」を導入し、終わりの会で発表する場面を設けた。また、単元記録表をもとに前単元を振り返ることで、生徒の活動の良かった点、改善点を明らかにすることができ、次単元に向けて、友達と協力する場面の設定や手立ての見直しをすることができた。

このような前単元の様子から本単元では、

- ①仕事を黙々と進める。
- ②適切な声の大きさと挨拶や報告をする。
- ③友達と協力する。

を身に付けられるように取り組んでいく。具体的な手立てとして、①任された仕事を黙々と進められるように、使用する用具等の色分けをし配置を整え、生徒が自身で考えて行動できるような環境づくりをする。そしてバスボムグループでは、様々な型や色のバリエーション（マーブルや2色混合）を増やし、ぷにぷに・きみとくん石けんグループは試供品作りを加えることで、作業量を確保し、時間いっぱい取り組めるようにする。②適切な声の大きさと挨拶や報告ができるように、視覚的支援として「声のものさし

表」を用意し、声の大きさを確認する。③友達と協力して取り組めるように、製品作りやラッピング、お店づくりでは、役割分担を明確にし、流れ作業ができる場を設定する。また、「振り返りシート」では、活動を振り返るだけでなく、生徒の実態に合わせて次回頑張ることや目標を書けるようにしていく。事例生徒だけでなく、アセスメントシートのチェック項目を活用して、生徒個々に付けたい力についても明確にして取り組んでいきたい。

本単元は、学校祭に向けての単元で来校者も多く、活気ある販売会となる。例年行うぶにぷに石けん作り体験コーナーの他に、ペーパーソープの試供品を配布し、使用感についてのアンケートを実施する。バスボムも新たな形や色の混ぜ合わせに取り組み、生徒がより意欲的に活動できるようにする。お客さんに関わる場面が多くなるので、挨拶や接客の際にスムーズなやり取りができるよう、普段から挨拶や報告の声の大きさ、相手が心地よいと思える態度が身につくような支援をしていきたい。単元の終わりには、アンケート結果をもとに新製品開発を行い、次単元への意欲も高めるようにする。

本単元を通して、任された仕事を最後まで行うことや挨拶の大切さを実感できるようにしていきたい。そして、友達と協力して製品を作り上げ、販売することの喜びや達成感を味わってほしい。

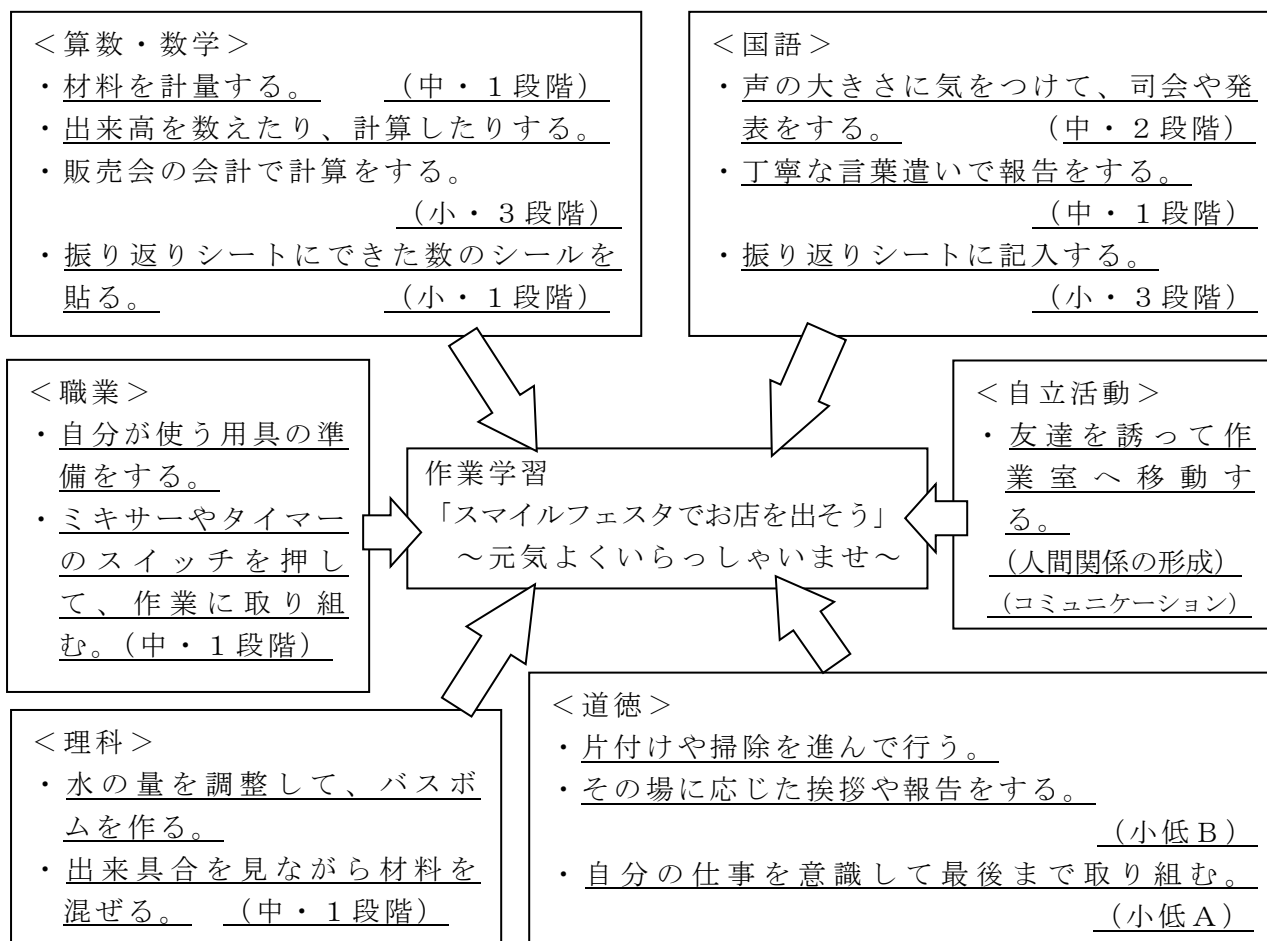
3 単元の目標

- ・担当する仕事を覚え、黙々と作業に取り組むことができる。（知・技）
- ・その場に応じた声の大きさを挨拶や報告をすることができる。（思・判・表）
- ・友達と協力して、作業やお店づくり、販売活動に取り組むことができる。（主）

4 単元の計画（本時23、24時間目／47時間）

月 日	時 数	活 動 内 容
9 / 4 (水)	2	○フェスタ始めの会（4班合同）→班ごとに店名決め・目標決め
5 (木)	2	
9 (月)	2	
10 / 10 (火)	2	○製品作り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>バスボムG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を計る。材料を混ぜる。塊をつぶす。 ・霧吹きで水をかけてもう一度混ぜる。カップに入れて圧縮する。 ・乾燥したらトレーの上に出す。 <p>ぷにぷに石けん、きみとくん石けんG</p> <p>ぷ：材料を計る。洗剤とお湯をボウルに入れる。 ヘラを使って洗剤とお湯を混ぜる。 教師に報告してトレーに移す。</p> <p>き：固形石けんを計る。水を計る。材料をミキサーに入れる。 タイマーをセットし、ミキサーのスイッチを押す。 タイマーが鳴ったらミキサーを止め、容器に移す。</p> <p>洗濯G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機に雑巾と洗剤を入れてスイッチを押す。 ・前日に干してあった雑巾を取り込む。台車を押して雑巾の配達、回収をする。回収した雑巾の枚数を表に記入する。洗濯した雑巾を干す。 </div>
11 / 1 (水)	2	
12 (木)	2	
17 (火)	2	
18 (水)	2	
19 (木)	2	
24 (火)	2	
25 (水)	2	
26 (木)	2	
27 (金)	2	
30 (月)	2	○製品販売準備（ラベル貼り、ラッピングなど）
10 / 1 (火)	2	
2 (水)	2	
3 (木)	3	○前日準備・販売練習・お店装飾
4 (金)	3	
5 (土)	3	○スマイルフェスタ前日祭
8 (火)	2	
9 (水)	2	○スマイルフェスタ販売会
10 (木)	2	
		○フェスタ片付け・終わりの会発表準備
		○フェスタ終わりの会

5 単元と各教科等の内容との関わり



※下線は本時に関係する内容

6 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

主体的な学び (興味・関心、見通し)	対話的な学び (やりとり、気持ちを伝える)
<ul style="list-style-type: none"> ・ MVP表とカウントダウン日めくりカレンダーを用意する。 ・ 作業工程表を写真カードで用意する。 ・ 材料の違いが分かるように、入れ物を色分けする。 ・ 十分な活動量を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が持っているかごに雑巾を入れたり、出したりする役割を設ける。 ・ 材料がなくなったら、教師の肩を叩いて知らせる約束をし、支援をする。 ・ ラベル貼りやラッピングの工程を分けて、仕事を分担し、流れ作業の場を設定する。 ・ 生徒自身が出来映えを確認できるように、見本の写真や実物を提示しておく。(物との対話)
深い学び (知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が販売会までの日程を知り、一日の目標数を計算したり、考えたりできるように支援する。 ・ 生徒が今日の頑張りを発表できるように、MVP表を用意し、活用する。 ・ 生徒が自己評価をし、発表できるように、生徒の実態に合わせた振り返りシートを用意する。 	

授業づくり例（主体的な学びのための支援）



<使用用具を自分で準備・片付けするための工夫><生徒が一人で作業を進めるための視覚的手立て>

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・担当する仕事を覚え、作業に取り組むことができる。（知・技）
- ◎その場に応じた挨拶や報告・意思表示をすることができる。（思・判・表）
- ・準備や片付けなど、友達と協力して製品を作ることができる。（主）

(2) 本時の展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の手立て	教材・教具
3	○作業の準備をする。 ・エプロンを着る。 ・手を洗う。 ・自分の使用する用具を準備する。	・エプロンや手洗いが一人で難しい生徒には、教師と一緒にやる。 ・使用する用具が分かるように、ケースに写真や名前カードを貼っておく。【主】	エプロン ケース 写真 カード
1 2	1 始めの会を行う。 ・班長の号令で挨拶をする。（B） ・作業時間と終了時間を知る。 ・単元目標の確認をする。	・班長に注目できるように、話し始める前にベルを鳴らす。 ・作業時間、終了時間が分かるように指さし棒や時計のイラストを掲示して伝える。 ・目標をボードに掲示し、目標を確認できるようにする。	ベル 指さし棒 時計の イラスト 単元目標
30	2 製品を作る。 ・班長（B）の言葉かけで製品作りを始める。 【バスボムG】 ○バスボムを作る。（A、C、D、E） ・4種類（重曹、クエン酸、片栗粉、入浴剤）の材料を計量する。 ・ボウルに材料を移して混ぜ合わせる。	・他の生徒が班長を注目できるように言葉をかける。 ・一人で作業を進められるように工程表を用意する。 ・材料の種類が分かりやすいように、材料の入れ物を赤、青、黄、緑の4色で色分けする。【主】 ・正確に計量ができるように、グラム数を書いたカードを見えやすい位置に置く。また、秤のグラム数とカードのグラム数が合っているかを教師と確認する。 ・均一に混ぜ終わったかを確認できるように、混ぜ終わりの写真を用意する。【主】 【対】	トレー ボウル ヘラ 材料 計量器 写真

<ul style="list-style-type: none"> 霧吹きで材料に水を1回吹きかけ、混ぜるを5回ほど繰り返す。 混ぜ終わった材料をカップに移す。 カップの上からキャップを使って圧縮する。 できたら教師に報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定して混ぜる作業が行えるように滑り止めシートを用意する。 広く水がかかるように、材料を広げてから水をかけるように伝える。 材料がこぼれないように、カップに移すように言葉をかける。トレーの上にこぼれた材料はもう一度集めてカップに入れるように伝える。 しっかりと圧縮ができるように、両手で抑え力強く押し込むように伝える。 適切な言葉遣いで報告ができるように、報告の仕方の手本を示す。 報告を忘れている場合は、「終わったらどうしますか」などの言葉をかけ、気付けるようにする。☑ 	<p>滑り止めシート 霧吹き</p> <p>カップ</p> <p>キャップ</p>
<p>【ぶにぶにG】</p> <p>○ぶにぶに石けんを作る (B、F、G)</p> <ul style="list-style-type: none"> カップに12gの洗剤を量って入れる。(B) 洗剤とお湯をボウルに入れて2分間ヘラで混ぜる。 できたら教師に報告をする。 できあがった石けんをケースに移す。 <p>○きみとくん石けんを作る。(H)</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗剤と水をミキサーに入れ、2分間攪拌する。 できたら教師に報告をする。 ミキサーを持って、バケツのところへ移動し、できた液体石けんをバケツに移す。 	<ul style="list-style-type: none"> 12gが分かるように「12」と書いたガムテープを作業机に貼っておく。☑ 計量器の上にこぼれないよう、ゆっくり正確に行えるように言葉をかける。 タイマーを2分間でセットしておく。 適切な言葉遣いで報告ができるように、報告の仕方の手本を示す。 報告を忘れている場合は、「終わったらどうしますか」などの言葉をかけ、気付けるようにする。☑ こぼさずケースに移せるように両手で移すことを伝える。 洗剤と水を事前に用意しておく。 ミキサーのONとOFFのスイッチがわかるようにOFFのボタンを厚紙で囲っておく。☑ 報告ができるように、「できたね」と言葉をかけながら、教師が両手を出し、ハイタッチができるようにする。☑ ミキサーを両手で持っていることを確認し、様子を見て教師が手を添えて一緒にバケツに移す。(介助員)☑ 	<p>カップ ガムテープ 計量器</p> <p>ヘラ タイマー ボウル トレー</p> <p>材料 ミキサー タイマー</p>

<p>【洗濯 G】 (始めの会の前)</p> <p>○前日に集めた雑巾を洗濯する。(I)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前日干しておいた雑巾を取り込み、カゴに入れる。 <p>○洗濯した雑巾を配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的の教室に入るときに「失礼します」を言って、おじぎをしてから入室する。 ・「雑巾は洗濯中」のカードを回収する。(J) ・Jがカゴを持ち、Iがカゴに入った雑巾を雑巾かけにかける。 ・雑巾かけにかけた雑巾の枚数を数えて、記録表の数字と同じであると確認してから○を書く。(I) ・「雑巾は洗濯中」のカードをつける。(J) ・「失礼します」を言っておじぎをしてから退室する。 <p>○洗濯前の雑巾を回収する。</p> <p>※雑巾配付と同じ流れで活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収の時は、Iがカゴを持ち、Jが雑巾を入れる。 ・作業室に戻り、台車を片付ける。 <p>○雑巾を干す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗った雑巾を洗濯機から取り出す。(I) 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑巾のカゴを指定位置にセットしておく。主 ・押すスイッチを教師と一緒に確認する。 ・2人の立ち位置を(角ハンガー)の両端になるように決める。主 ・洗濯ばさみを引っ張らずに開け閉めして取るように手本を示す。(T3) ・「失礼します」を言うときに「せーの」と言葉をかける。対 ・カードのついた洗濯ばさみを一緒にはずす。(T3) ・Jがカゴを両手でしっかり持っていることを確認する。 ・枚数を数えるときに声に出して一緒に数える。対 ・記録表の書く場所を指さしで示す。 ・カードのついた洗濯ばさみを一緒につける。 ・「失礼します」を言うときに「せーの」と言葉をかける。対 ・配付の時と役割が変わることを伝える。対 ・雑巾の長い辺を洗濯ばさみでとめられるように言葉をかけたり、指さしたりする。 ・2人の立ち位置を(角ハンガー)の両端に 	<p>洗剤 洗濯機 台車2台 角ハンガー かご</p>
--	--	---

15	<p>3 各グループで片付けをし、振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りシート」に今日の反省や感想等を記入する。 	<p>なるように決める。主 対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が使った道具を洗ったり、片付けたりするよう言葉をかける。 ・生徒の実態に合った振り返りシートを用意する。深 	振り返りシート シール
10	<p>4 終わりの会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副班長の号令で挨拶をする。(A) ・グループごとに今日作った個数を発表する。 ・頑張ったことや明日頑張りたいことを発表する。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副班長に注目できるように、話し始める前にベルを鳴らす。 ・振り返りシートを見ながら今日頑張ったことや明日頑張りたいことを各グループ1名ずつ発表できるようにする。対 深 ・姿勢を正し、副班長に注目するよう言葉をかける。 	ベル

(3) 評価

- ・担当する仕事を覚え、作業に取り組むことができたか。(知・技)
- ◎その場に応じた挨拶や報告・意思表示をすることができたか。(思・判・表)
- ・準備や片付けなど、友達と協力して製品を作ることができたか。(主)



<初期発達の生徒でも分かりやすく、主体的に行える作業内容>



<はじめの会・終わりの会の進行の様子>

V 研究の成果と課題

単元記録表において、各作業班が、作業学習の具体的な活動内容を書き出し、関連する各教科等の内容を確認した。それにより、教師が関連する各教科等の内容を確認し、各教科等の内容の視点を意識することができた。さらに、作成した単元記録表をツールとして、教師間でPDCAサイクルによる授業づくり〔P：話し合い（単元構成の工夫、授業内容の工夫、場の設定の工夫、教材教具の工夫等）→D：授業実践（生徒のつきたい力と支援方法の確認）→C：単元の振り返り（授業づくりチェックリストの活用、生徒の支援の妥当性の検討、関連する各教科等の内容の単元における経過と変容）→A：授業の見直し（次単元への改善点）〕を行った。それにより、具体的な改善の方策がわかり、生徒への支援方法の改善に結びついた。P：話し合いでは、「初期発達の生徒に対し、どのようにして授業の振り返りを行うのか。」「生徒への具体的な手立てや教材、教具はどうしたらよいか。」などの課題に対して、教師全員で考え、意見を出し合うことができた。生徒の質の高い学びを目指した建設的な意見が多く出され、話し合いが深まった。この研究を通して、中学部の教師同士が、円滑にコミュニケーションをとる雰囲気が形づくられ、授業改善を積極的に進めることができたことは、大きな成果の一つである。また、設定した活動や手立てが、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりになっているかを再度洗い出すことで、生徒の学びを具体的にイメージした授業づくりができ、授業改善につながった。

今後の課題としては、教師同士の話し合いの時間の確保や関連する各教科等の内容の視点に沿った目標設定や評価の方法の改善等が挙げられる。

アセスメントシートの活用により、〔P：生徒の実態把握→D：実践（指導の経過と変容）→C：評価（単元の目標（つきたい力）の評価）→A：授業改善（次単元の目標と活動内容、支援の方法等）〕のPDCAサイクルが実現した。アセスメントシートのチェック項目から単元ごとに重点をおく目標を各観点から一つに絞ることで、教師が生徒の目標を明確に意識でき、支援の方法についても教師間で共通理解を図ることができた。目標と支援の方法が明確になることで、生徒の変化や成長に気付き、即時評価をすることで生徒本人と教師間でのがんばりを確認し合えた。この実践で教師の視点も深まった。アセスメントシートにより、一人一人に合った授業づくりができた。そして、個別の指導計画や他の学習場面にも活用され、研究の構想図におけるPDCAサイクルが機能し始めた。

これらの取組を通して、「質の高い学び」とは何かを求めてきた。生徒の姿として、振り返りシートを学級に持ち帰り「頑張ったこと」を嬉しそうに担任に伝える姿や出来高表の内容の数を確認し、目標に向かって全員が一丸となって取り組む姿、自分が作った製品がどのように活用されているのかについて深く考える姿などが見られるようになった。生徒たちの姿は、本研究のテーマである「すすんで学び、考え、行動する」に結び付いてきたのではないかと考える。

1 単元記録表

○ 2年目の課題

- ・ 活動内容を整理し、関連する各教科等の内容を洗い出すことでの気付きは多くあるが、授業改善につながらなかった。



○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

- ・ 単元記録表をもとに教師間で話し合うことにより、授業づくりで大切にすることやそのための支援方法についてアイデアを出して共通理解を図ることができた。作業班全体での方向性が明確になった。
- ・ 昨年に引き続き、学習内容から関連する各教科等の内容を書き出し、精選することで、教師が各教科等の内容の視点をもつことができた。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の項目があることにより授業づくりで大事にする観点が明確になった。授業者も参観者も授業を見たり、評価をしたりしやすかった。

< 課題 >

- ・ 関連する各教科等の内容の評価では、一つの単元内で経過や変容を読み取ることが難しい面があった。理由として一つの単元期間が短いことが挙げられる。長期的な期間で関連する各教科等の内容の経過、変容を見ていくことが望まれる。初期発達の生徒は、中学部の段階の各教科等の内容に当てはまる生徒が少なく今後も小学部の学習指導要領を参考にしていく必要がある。



○ 課題改善に向けて

- ・ 関連する各教科等の内容の評価については、更なる各教科等の内容の精選を図る。または、新たに各教科の見方・考え方を参考に様式の改善を図る。

2 アセスメントシート

○ 2年目の課題

- ・ 高等部とのつながりを意識したチェック項目を設定したが、アセスメントシートを高等部と相互に活用するまでには至らなかった。



○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

- ・ 生徒につけたい力や個々の生徒に対する手立てが明確になり、教師間で共通理解ができ、生徒への支援の工夫につながった。
- ・ 関連する各教科等の内容という項目を設けたことによって各教科等の内容との関連が明確になり、教材の作成、言葉がけにつながった。
- ・ 関連する各教科等の内容における評価の項目を設定することで個別の指導計画に反映することができた。そして、生活単元学習や国語・数学等各教科の指導にも活かすことができた。
- ・ 教師が学習指導要領を改めて読み返す機会が増え、各教科等の内容への意識が

高まった。

- ・ 中学部・高等部の研修会では、個々の生徒に対する新たな支援や手立ての方法とともに各学部で作業学習において大切にしたい点について共通理解を図ることができた。

<課題>

- ・ 生徒の発達段階により、書きにくい面もあった。初期発達の生徒には、関連する各教科等の内容が該当する項目が少なかったり、経過・変容が読み取りにくかったりした。
- ・ アセスメントシートを活用して作業担当と担任との連携が十分とは言えなかった。



○課題改善に向けて

- ・ 幅広い発達段階の生徒の実態に即したアセスメントシートの様式について項目の検討を行いながら簡素化し、今後も継続して活用できるものにしていく。
- ・ アセスメントシートを使って、担任と作業担当が話し合う機会を設ける。また、様式の改善に向けて、アセスメントシートや事例生徒について学部全体での話し合いの機会を増やしていく。

3 主体的・対話的で深い学びの授業づくり

○3年目の成果と課題

<成果>

- ・ 生徒個々の実態に応じて振り返りシートを作成し、記入することで、一人一人の振り返りが充実していた。初期発達の生徒へは、即時評価することによってすぐに自分の行動を振り返ることができ、動機付けを高める手段として有効であった。

<課題>

- ・ 授業において教師の働きかけが多く、生徒の主体的な動きや思考する機会が少なくなっていた。
- ・ 生徒自身が気づき、考えるきっかけをつくる環境づくりについて深めていくことが今後の授業改善につながっていく。



○課題改善に向けて

- ・ 作業学習での授業の様子を撮影して、教師の支援方法や教師の動線、動きについて意見を出し合って授業づくりに反映させていく。
- ・ 生徒自身が気づき、考えることの支援として、授業の様子を写真にとり、振り返りシートに貼り付けることやタブレット端末を活用した振り返りの機会を設けることによって深い学びにつなげる。